

# 成果報告書

2017年度助成	所属機関	認定こども園 伊勢原幼稚園	
役職 代表者名	園長 鈴木 伸治	役職 報告者名	主幹教諭 倉地 利巳子
タイトル	園芸を通して豊かな心を育む		

※ご異動等で現職の方では成果発表が難しい場合、上記代表者または報告者による代理発表を可といたします

## 1. 実践の目的（テーマ設定の背景を含む）

花や野菜を育て慈しむ事で、小さな命の営みや不思議さを体験し人間の努力だけでは成し遂げられない自然の力に触れて欲しい、という願いから今回のテーマを設定した。

本園は、園庭の片隅に小さな畑があり、従来もトマトやキュウリを育て子ども達の手で収穫し、採りたての野菜をいただく事で苦手な野菜に挑戦する姿を見る事が出来、食育の面でも良いきっかけになっていた。

この機会に従来の活動からさらに学び深いものとなるよう、畑のスペースを広げ、種まき・発芽・花や実がなる様子を楽しんで観察を行ったり、収穫した野菜を用いて子ども達の手で料理をしたり、摘んだ花で布や羊毛を染色したり、押し花などの作品作りの楽しさを味わえるような、2年間の栽培プログラムを作成した。

人の土台が育つ幼児期にこの経験を通して私たちの周りにある自然の恵みに気づき、大切にすることを、感謝する気持ちが育まれるように取り組んでいきたい。

## 2. 実践にあたっての準備（機器・材料の購入、協力機関等との打合せを含む）

- ・実践にあたり園芸指導の資格を持つ職員が中心となり畑を広げ新しく土や肥料を入れ、園児が中に入り観察しやすいようにレンガで小道も作り整備した。
- ・花や野菜などに興味を持ってもらうために植物の名前を紹介するためのプレートを購入した。
- ・夏には炎天下の作業にならないようにテントを購入し、日陰で園芸を行えるようにした。
- ・部屋に本棚を設置し、園芸や生き物に関する絵本などを置けるようにした。

### 3. 実践の内容

#### 【園芸活動の取り組み】

●種まきなどの前には、園芸指導の資格を持つ職員から話を聞き、興味と楽しみを持って活動に取り組めるように言葉かけをし、水やり、草抜き、収穫など日々の世話を子ども達が主体的に行えるように配慮した。

●植物の名前のプレートや生育過程の説明が表示してあるパネルで、興味を持って見られるようにした。

●間引きなど、栽培管理をする理由を園児たちに考えさせ、目に見える形で分かりやすく説明をすると共に、栽培管理を行わないものも作り比べることで、理解につながるようにした。

●出来上がりの葉物野菜やジャガイモなどは種類ごとに写真を保育室に貼って、出来上がりや収穫を楽しみに思うとともに、種別の違いを知り、野菜に親しめるようにした。

●作物や室内保管の苗、取れた種などを廊下に展示し、興味を持って見られるようにした。

●園芸や虫など自然に関する絵本や図鑑を本棚に集め、関心のある園児が自由に見られるようにした。

#### 【栽培した作物】

##### 《年少》

#### ●ラッカセイ・インゲン・ポップコーン（2018年度）

種が鳥に食べられやすいため、子ども達と鳥よけの対策を考え、鳥害対策をした（ネットなど）。ラッカセイは、花が咲いた後子房柄が土にもぐること、子房柄が成長しラッカセイになったことを知った。収穫し、それぞれに調理していただいた。ポップコーンは1か月ほど室内で乾燥し、加熱するとはじけ白いポップコーンになるのを楽しんだ。

#### ●カボチャ（2019年度）

発芽した10本のカボチャのうち8本を間引いた際には、1本に肥料や水が沢山行き大きなカボチャに生長させるために間引きが必要だということを理解した。2個のカボチャを収穫し、調理していただいた。

#### ●ミニニンジン・ミニダイコン

収穫し、カレーや味噌汁に入れていただいた。

#### ●茎ブロッコリー

苗を植える前に茎ブロッコリーはどの部分を食べるのかをそれぞれに考えた。（根っこ、茎、花、実など）どこの部分を食べるのかを想像し、収穫の際には「花」の部分を食べることを知り、収穫しないでそのまま残しておいた茎ブロッコリーは黄色い花が咲くのを見て楽しんだ。

##### 《年中》

#### ●ワタ

花の色が変化し実ができ、はじけて綿が出来ることを不思議に思い楽しんだ。秋ごろに綿を収穫し、綿と殻に分け綿から種を取り出し、種は来年植えることに期待を持ち、綿はリース作りなどに使用した。

#### ●葉物野菜

植える前に種の形状の違い、どんな野菜が出来るのかを写真で見え違いを知った。収穫し茹でていただいて、味の違いを知り、収穫しないで畑に残した野菜に花が咲くことを知った。

#### ●タマネギ

種をまき発芽したら畑に移植し、収穫して軒下に干して、カレーに入れていただいた。

●春の花

ピートバンに種をまき室内で発芽の様子を観察後、プランターに移植し、咲いた花は押し花にして制作に使用した。

《年長》

●ジャガイモ

ひとつの種イモからいくつのジャガイモがとれるのか予想をして、プランターに種イモを植えた。土寄せ、芽かきなどをして、しないとどうなるのかの検証を行い、栽培管理の大切さを学んだ。収穫していくつのジャガイモが出来たのかを数え、カレーに入れていただいた。

●キュウリ・トマト

実の大きさや色が変わっていくのを見て、日増しに大きくなる実の変化や日々の収穫を楽しんだ。

●春の花の押し花

ビオラやパンジーなど園庭に咲いている花や、花の日礼拝の日のアジサイなどで、押し花乾燥シートを使い押し花を作った。花びらの色や形、枚数などの違いに関心を持ち、出来上がった押し花はキャンドル作りに使用した。

#### 4. 実践の成果と成果の測定方法

小さな種から芽が出て伸びていき、実をつけるなど自然の不思議さ面白さを感じ、世話をすることによって手をかけることの大切さを学ぶとともに、育てる喜び、収穫の喜び、食べる喜びを感じながら、食物に対する感謝の気持ちを持つことができた。

園芸指導の資格を持つ職員から話を聞き、手をかける野菜とかけない野菜の比較を行ったり、日々観察をしたりすることで知識も増え、関心が広がり深まった。

日々畑に観察に行くようになり、畑にいる虫にも興味を持ちダンゴムシや青虫をたくさん捕まえて飼育し、青虫がサナギになり羽化する様子に驚き、命の不思議さやサイクルを感じる日々となった。

●子どもの気づきや変化

- ・葉物野菜の種、とっても小さいんだね、白と黒なんだね、細長いね、という呟き。どこから芽が出るんだろう？と疑問に思う姿、この種の中に命がはいっているんでしょ。という言葉があった。葉っぱが出てきた、こんなに大きくなるんだねなどと友達と喜び合っていた。

- ・コマツナの間引きをする前に、シートの上に大人数で乗ってみて、間引きをする理由について理解した。

- ・押し花を作る際に、花の名前を覚えた。

- ・種イモを植える際、太陽の光を浴びて元気な緑の芽が出ている種イモを植えることを知った。白くて元気のない芽が出ているジャガイモは暗い所にいたと予想する子どももいた。

- ・じゃがいもの土寄せの際、土寄せをしないで日に当たると、毒になるし緑になるんだよね。と土寄せをする意味を理解していた。

- ・じゃがいもの形や色を見て、メークイン、きたあかり、男爵の区別がつくようになった。

キタアカリは甘いね、と話していた。

- ・ジャガイモの収穫の際、ゼリー状になった種イモを見て驚いていた。めかきや土寄せをしていないものは小さくて、手入れをしてあげたジャガイモとの違いに驚いていた。

- ・大根の種まきでは小さい！赤い！と驚き、赤いのは消毒したからと聞いてうなずいていた。

大根の葉を見て、ハートの形になってると、一番最初に出てくる葉だけ形が違うことに気づいた。収穫の際、大根は根っこの部分だと聞いて驚いていた。

- ・ワタの中にある種を見つけて、大きさや形がブドウに似ていると言っていた。ワタで洋服が出来ていることを知り、自分の服を触って比べていた。
- ・タマネギの種から苗を育て、畑に定植する際、その苗がタマネギのにおいがすると気づいた。
- ・ベビーレタスの種は細長くひまわりの種のような模様・形に見えることを発見していた。
- ・花の苗をプランターに移植する際、白い根が見えて「こんな形なのか」と驚いていた。

#### ●アンケート結果

保護者の方にアンケートを行った結果、園芸に取り組み野菜や植物や虫等自然に対する興味関心が高まったことがうかがえた。

質問1 以前、野菜が 好きだった 34% 嫌いだった 66%

嫌いだった園児のうち、食べられる野菜が  
増えた 71% 変わらない 29%

質問2 以前、虫や植物など自然に対して

興味があった 57% 関心なかった 28% 嫌いだった 15%

関心なかった・嫌いだった園児のうち、自然に対しての興味関心が

好きになった 33% 興味を持つようになった 57% 変わらない 2%

質問3 ご家庭で園芸の話を 話す 83% 話さない 17%

### 5. 今後の展開（成果活用の視点、残された課題への対応、実践への発展性など）

- ・今後も子ども達の気づきを大切にしながら、自然からの豊かな学びを得られる園芸活動に引き続き取り組んでいきたい。
- ・子ども達からの何を作りたいか、何の料理を作りたいか等の発言を取り入れた栽培をしていきたい。

### 6. 成果の公表や発信に関する取り組み

※ メディアなどに掲載、放送された場合は、ご記載ください

幼稚園ホームページにて、保護者や地域の方に園芸の取り組みについて紹介した。

### 7. 所感

園芸活動に子ども達が主体的に取り組むことで、野菜や草花に関心が深まり友達と一緒に働き作物を育てる事を喜ぶ体験ができたことにとどまらず、畑に集まる虫にも大きな関心を寄せたことも今回の取り組みで得たことであった。

苦手だった野菜が食べられるようになったり、園芸に興味を持つ園児が増えたりとアンケート結果にも表れているが、子ども達の生活に園芸活動が良い影響を与え成長につながってることを感じている。

幼児期にこのような体験ができたことが子ども達の更なる成長につながると思う。日産財団による助成をいただき、今回このように園芸に関する環境を整えることができたことに感謝している。今後も助成の購入品を有効に活用しながら、さらに充実させるように取り組んでいきたい。